

### 第 3 回 南小国町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 議事録

期 日 平成 25 年 2 月 19 日（火） 13:30～15:50  
場 所 南小国町地域福祉センター りんどう荘 研修室  
出 席 者 策定委員 14 名、事務局 7 名  
欠 席 者 策定委員 6 名、（高橋周二 氏、松崎俊光 氏、井洋一 氏、齊藤加代子 氏、辻龍也 氏、平野たか子 氏）

※欠席された委員からは、委員会開催前にご意見等をいただいております。  
事務局職員 1 名（加賀 孝之）

事 務 局 【南小国町町民課】  
（課長）嶋崎 俊秀、（班長）橋本 晶子、（主事）田北 雅昭  
【南小国町社会福祉協議会】  
（局長）藤堂 伸二、（活動専門員）佐藤 新一郎、（策定専門員）田中 良和  
【協力】ひとちいき計画ネットワーク 佐伯 謙介 氏

まず資料の確認をする。全員の手元に資料が行き届いていることを確認後、南小国町町民課 橋本班長より、開会を宣言する。その後、井野正嗣委員長挨拶。引き続き、策定委員会設置要綱 第 5 条 3 項に基づき議長として議事進行を行う。

議 事 第 1 号「南小国町地域福祉総合実践計画（案）について」  
第 2 号「地域福祉推進のスローガンについて」  
第 3 号「南小国町地域福祉推進委員会設置要綱（案）について」  
第 4 号「地域福祉推進に係る広報について」  
第 5 号「その他・意見交換等」

議 長 今までの経過報告ということで、事務局の田中君から説明をお願いします。  
田 中 （今までの計画の経過報告をする。）（3 分）

議 長 計画書の説明を、佐藤君と田北君から説明をお願いします。そして、計画書に対する意見等を後ほど、30 分程設けたいと思います。

佐藤・田北 （第 1 号 南小国町地域福祉総合実践計画（案）について説明する。）（56 分）

議 長 資料 2 に移ります。資料 1 の 29 ページにあります、南小国町での地域福祉推進のスローガン（第 2 号）ということで（29 ページの）丸い輪の中に入れようと、案として出させていただいております。是非皆様からも意見を頂戴したいと思います。

鞭 馬 「みなみなみんな」の部分が言い難いかなと思います。

佐 藤 「みなみなみんな」は、本日欠席していますが、加賀孝の考案のものです。「南」と「皆」をかけたものです。分かり易い表現なら、「みんなで」というような形でも良いと思います。「繋ぐ」という表現については、他に「結」（むすぶ）という表現の方が良いのではというご意見もありました。「きよらの輪」の「輪」は、地域住民の輪や行政等をイメージしておりまして、後ほど佐伯先生にも説明をいただきますが、表紙のイラストに

も「輪」をイメージしたものを載せていこうかと考えているところです。

佐 伯 確かに「繋ぐ」という字を書けと言われると、少し難しい気もします。読めるのは読めるけれどもという点においては、「結」といった表現の方が簡単で良いのかなと思いました。あともう一つ、「みんなでもよ〜て」という表現にするのか「みんなもよ〜て」と、「で」がいるのかいないのかというところで、「みんなでもよ〜て」という言い回しはしないのではないかと思います。「みんなもよ〜て」とすると、「みんなもよ〜て 結ぶ きよらの輪」とちょうど文節が区切れるのではないかと考えてみたところです。

議 長 意見をお願いします。

松 崎 陽 確かに「みなみなみんな」というのは、よく考えたなと思います。ただ委員の皆様が感じておられるように少し読みにくいかなと思います。パツと頭に入ってこないような気もします。「みんな」が良いかと思いますね。

議 長 例えば、どこかで句読点を付けてみる等、言い易いような形にすると分からないこともないのでしょうが、これを続けてしまうと、どこで区切っていいかわからない場合もあると思います。若い人でも考えるでしょう。

佐 伯 「みな・みな・みんな」ですかね。

穴 井 一 漢字が難しいなら、「結」という字で「つなぐ」と読めばいいだけです。例えば、きよらの「輪」にしても、平和の「和」でも良いと思う訳です。

石 橋 「みな」を一個減らしましょう。

加 賀 五・七・五の様にスラスラと繋がらないと言ひ難いと思います。例えば「きよらの郷 みんなで結ぶ 福祉の輪」といった具合に。

藤 堂 「いらん世話ばってん 誰もうっちゃかれんのが きよらの和」というのはどうでしょうか。

議 長 案が三つ出ましたがどうでしょうか、他にはないでしょうか。

石 橋 「もよ〜て」ではなく「もやって」では駄目でしょうか。「もやって」の方が、なにかハッキリしている様な気がします。

加 賀 だったら「もやいで つなぐ」の方がいいですね。

石 橋 そうですね。それが良いと思います。

議 長 三つ案が出ましたけれども、どれかに決めたいと思います。どのような形で決めたら良いでしょうか。

松 崎 陽 私は「みなみんな」となる様ならば、みなは2回入れたほうが良いと思います。「みなみなみんな」と。それか「みんな」のいずれかでと思います。

議 長 「きよらの郷で みんなで 結ぶ 福祉の輪」じゃ、駄目でしょうか。

加 賀 「きよらの郷で」の「で」は要らない。

鞭 馬 福祉について、皆で連帯感を持つので「福祉」という言葉は入れた方が良いと思います。「きよらの郷 もやいで つなぐ 福祉の輪」というのはどうでしょうか。

加 賀 そうですね。語呂も良くて良いと思います。

議 長 最終的に「きよらの郷 もやいで つなぐ 福祉の輪」ということで、良いですか。

委 員 全員承認

議 長 では、それでいきたいと思います。それでは、10分間の休憩を入れまして、再び協議に入りたいと思います。

(10分休憩)

- 議 長 それでは、先程説明を行いました資料1「南小国町地域福祉総合実践計画」について、不明な点や改善点等、ご意見を頂戴したいと思います。
- 佐 藤 補足ですが、目標としてあげているところで、数箇所目標として設定出来ない部分もありまして、例えば53、54ページの「17番・地域包括ケアシステムの整備」で子どもから高齢者まで住み慣れた地域で、出来るだけ自立した生活が続けられるよう、一人ひとりの日常生活全体を包括的に支えていくということが内容方針となっておりますが、こちらについては目標として設定が難しく、既に取り組んでいる事業ということもあり、その事業を継続していくということで、目標の設定をしていない、というような箇所が数箇所あります。
- 加 賀 37ページの生活サポートの検討で、現在、行政・社協・なすなの会が整備しているということですが、サポート内容に日常の買い物や通院を有償ボランティアの仕組みを作ってやってみてはという話が出てきています。南小国町には、シルバー人材センターがありませんので、こういった取組みは具体的に進めていく必要があると思います。それともう一つ、お年寄りの居場所が無い、福祉施設はともかく一杯で入所を考えても簡単に入所できない状況であります。デイサービスなどの居宅介護だけでは難しくなってきました。これに関しては、町としての取組みも必要になると思います。軽費老人ホームというものもありますが、どちらにせよお金がかかってきます。一番良いのは、病院の近所に簡単なお年寄りの生活できる場があればと思うのですが、そういった部分も含めて、この計画の中に組み込めないでしょうか。
- 議 長 今は縁側なんかとか・・・という県の事業もあるみたいですが。
- 加 賀 あるのはあるのですが、それでは間に合いません。そして最近は地域密着が多いみたいですので、そうなると各市町村単位になってきます。ショートステイも介護度によって決まるので、あちらこちらと行き場の無いお年寄りになるというようなことが生じてくるでしょう。
- 議 長 加賀委員から、有償ボランティアの件とお年寄りの居場所が無いということで意見がありました。どうしても、これは個人で出来るようなことではありませんが、このようになにか皆様からも要望等ありましたら、意見を頂戴したいと思います。
- 穴 井 公 計画としては立派な計画が出来上がっていると思います。これだけの計画を少数の職員でどれだけ実践あるいは実現していけるのかというのが一番の心配です。これだけの事業をやろうと思えば、スタッフは足りないと思います。地域住民主体の地区部会のようなものを作り、福祉委員などを設置していくなどの方法がありますが、是非そういうことをしていかないと、担当職員もこれだけのことに係るという訳にはいかないと思うので、これは検討した方が良くと思います。
- 議 長 穴井委員から意見がありましたが、その通りでございます。私達委員も、今まで一生懸命努めさせてもらいましたが、この計画を作るのに精一杯だったと思います。ただ、これをなんらかの形で実現できるような仕組みを作っていないと、このまま計画倒れになってしまうのではないかという危惧する意見を頂きました。当然、きちんとその部分を考えて実行していくこと重要だと思います。
- 穴 井 公 座談会を開催した地区で推進委員等を設け、委員になってもらいそこで話を盛り上げて

いただいて、そして担当職員に結びつけていくというような仕組みはどうでしょう。

議 長 穴井委員が言うとおりに、ふくし座談会を各地で開催しておりますが、開催したところでは福祉委員等、そういった話にまでなったところもありますので、福祉を推進していく仕組みとして検討していく必要があるかと思われま。

佐 藤 穴井さんから意見があった福祉委員についてですが、優先順位としては、そこまで高くしておらず検討していくというレベルで考えておりましたので、もう一度この部分を見直しをしたいと思ひます。確かに、この計画の策定担当は私と田北君で進めてきましたが、計画書を作ることで業務が増え、今年度計画していた事業については順調に進んでいないというのが現状です。本日欠席されている高橋委員からもこの計画について、机上の空論にならないでほしいということで、運営の体制などもしっかりと整備考えた上で行ってほしいというお言葉をいただいております。先程出てきました福祉委員など、地域住民の活動の在り方をどのように推進していくべきか、具体的にしていきたいと思ひます。計画書の 45, 46 ページにもありますが、行政・社協の主な取り組みについて『活動チェックシートもとに、計画的な活動を支援』としか載せておりませんので、この部分については、以上を踏まえて改め見直しを行います。

議 長 佐藤君から意見が出ましたが、これからは私たちが地域福祉を実践していく訳ですが、佐伯先生から座談会開催地区で、実施後の良い事例や、こうなって欲しいというお考え等がありましたら、是非お願いします。

佐 伯 やはり座談会を通して、こういった事が大事であるとより多くの人に気付いてもらうのが一番良いことだと思ひます。その次に、地区の中に何人か中心的に動いてくれる方がいらっしやるというところですね。例えば、お年寄りの集まりや夏祭り等で地区の交流をしようと話が出た時に、福祉部や福祉委員という形で地区の役員、運営組織の中に位置づけられると、予算面、回覧板での広報、その人たちが動きやすくなると思ひます。そういう地区というのは、様々な工夫をして、次は何をしようかという話が繰り広げられています。

逆に、そういった方がいても区長が一年単位で交代をしていくなど、地区の組織で位置づけがないとなると、なかなか動きづらくなってきます。

そういう意味では、先程の福祉部などといったものを地区の中で位置付けてもらうと、より動きやすくなってくるのかなと思ひます。ただ、それを行政、社協からの依頼となると委嘱や費用弁償とややこしくなるので、あくまでも地域での自主的な位置づけとして福祉の世話役ということで、取り組んでいただくという事がポイントだと思ひます。それと、そういう活動を拾い集め、この地区はこういう事をやっているという事をお伝えしていくことが大事だと思ひます。どうしても伝わりにくいところもあると思うので。

鞭 馬 今、中原校区 10 地区で認知症サポーター養成講座を受講するようにしてあるのですが、先日湯田で受講後総会も兼ねた話し合いの中で、若い人がなにかしないといけないということで話があがって、湯田地区だけでも介護サポーターみたいな仕組みを、自分たちで作っていかないといけないという話になりました。

私の湯田地区では、座談会を 2 回開催してもらい意識が変わりつつあります。婦人会でも勉強会を開催したり、そういった中で皆の意識が変わっていくことは非常に良いこと

だと感じています。まだ座談会未実施地区が結構あると思いますが、町内においても温度差が出てくると思います。2回したところは意識付けが変わってきていますし、未実施地区においては、早急に座談会を開催する必要があると思いました。

石 橋 地域全体がこの福祉に目がいかないと、若い人たちは全然関係ないと認識の部分から、全部に知らせるためにどのように進んでいくかというところではないでしょうか。その次は地域の人全員に来てもらって、今後は少子高齢化社会であるという認識をしてもらい、地域で取り組んでもらうということを行わなければならない。口先で地域・・・とはいうものの若い人は殆ど座談会には来ません。地域の人たちが同じ認識をしないと、いくらここで議論をしてもなにも変わらないのです。自分の住んでいる地域の状況を知らない上、若い世代といっても、40～50代です。その認識がない人たちに対して、どう認識させていくかが、今の課題だと思っています。

議 長 様々な意見が出ておりまして、もっと意見を頂戴したいところですが、限られた時間でですので、申し訳ありませんが、先に進ませていただきたいと思います。  
計画書の内容についてですが、本日の会議で出された委員の皆様のお考えなどを踏まえて改めて見直しをしますが、計画内容の大きな変更でなければ、委員長・副委員長に任せていただきたいと思いますが、宜しいでしょうか。

委 員 全員承認

(第1号、第2号についての質疑応答 37分)

議 長 その次の福祉広報と要綱について、佐藤君から説明をお願いします。

佐 藤 (第3号 南小国町地域福祉推進委員会設置要綱、第4号 地域福祉推進に係る広報について説明する。)(8分) その後、質疑応答。

穴 井 公 委員は関係機関等の代表者などを基本に考えているようですが、もし職を辞されたり交代した場合、委員として発言すること自体おかしくなると思うのですが。

議 長 そこは難しい部分ですので、事務局で方向性をきちんと示してください。

加 賀 推進する訳だから、本当はずっと継続が良いのでは。

松 崎 陽 少なくとも年度末までは変わらないというような形でやっていくのが良いのではないのでしょうか。

佐 藤 一応、会議自体は年2～3回を予定しています。広報、企画会議などにも何名かの委員の方にご協力いただく事になるかと思えます。本日皆様からいただいたご意見等をもとに方向性をきちんと決めていきます。

(第3号、第4号についての質疑応答 8分)

議 長 それでは、最後になりますが、その他・意見交換についてですが、なにかありますでしょうか。

佐 伯 (計画書の表紙について説明する。) その後、表紙案の資料を回す。

議 長 資料が回っている間、なにかありませんか。

松 崎 陽 用語集はなかなか良いですね。初めて参加するうちは、言葉が全然分からなくて、意味から考えていかないといけないので、こういうものは非常に助かります。

穴 井 一 事業者側としての意見ですが、小国町に先だって小規模多機能型施設が新築で出来上がりがりまして、実際この小規模多機能というものはこれから非常に重要になってくると思われれます。

- 議 長 小国町の新しい施設 縁がわ…というものが出来たらしいですね。
- 穴 井 一 そうです。小規模な施設であります。多くのニーズに応えることができる多機能な面を持ち合わせている施設です。主なサービス内容のとして宿泊、ショート・ロングステイ、デイサービス、訪問介護、ケアマネージメントなど、細かいニーズに応えていくことを目的とした施設です。ただこういった小規模多機能施設を新しく作るようになった場合、建築費・職員の問題もありますので、そういうことを考えると地域で使っていない建物等を有効的に活用したり、ボランティアなど地域住民と協働してサービスを提供・開発していくのが、私は本来の小規模多機能の真意だと思います。これは、非常に地域福祉に近いものではないかと考えています。
- 加 賀 今、南小国町に小規模多機能は無いですね。
- 穴 井 一 小規模多機能施設は、一般の民家を活用するなど、財政面での負担をかけずにやるということであれば、これから将来は、必要性が高いと思います。
- 議 長 貴重な意見をありがとうございました。
- 佐 藤 穴井委員が言われた内容と、先程、加賀委員が言われた事は同等の事と思います。この部分については、計画にも具体的に示しておりません。確かに将来的には必要となってくると思われますので、項目に当てはめるとすれば、55, 56 ページの「生活環境整備」の項目に何らかの形で協議して入れていきたいと思えます。
- 佐 伯 介護保険法に則ると、南小国町の策定している介護保険計画というのが主体となってくるので、そこを差し置く訳にはいけません。介護保険と地域福祉の境界部分にはなりますので、この計画の中に取り入れても問題は無いのかなと思います。
- 藤 堂 その点については、今佐藤からも出ました 20 番・生活環境の整備という部分もありますが、前のページの 17 番・地域包括ケアシステムの整備でも、今厚生労働省もなるべく在宅（介護）でという方向で、この地域包括ケア、皆で支え合うというケアをどんどん推進されおりますので、それこそ先程加賀さんからも出ました高齢者の居場所や、穴井一さんからも出ました小規模多機能に関しましても、この項目の中で検討していく範疇かと思っております。
- 議 長 この点につきましても、これから必要性が高いと考えられますので、何らかの形で計画に反映させていく必要がありますので、事務局と協議して整理します。
- （その他・意見交換 11 分）
- 議 長 その他に何かありませんか。
- 佐 藤 何もなければ、本日サポートセンター悠愛さんからお知らせがあります。
- 椋 野 （サポートセンター悠愛からのお知らせをする。）
- 嶋 崎 それでは、この場を借りて委員の皆様へ御礼を申し上げたいと思います。当計画の策定にご協力いただき、本当にありがとうございました。お陰さまで、素晴らしい計画が出来上がりました。本日の会議でいただいたご意見などを踏まえ軽微な計画内容の変更については、事務局・委員長・副委員長とで検討し手直しをしていきます。計画の実行に関しましては、先程から話がありました推進委員会で評価・実践していきます。事務局としては、今の策定委員会の方々に、そのまま推進委員になっていただきたいと考えております。この後、また事務局からお願いがあるとは思いますが、その時はまた快くお引き受けをいただきたいと思えます。この計画は立派に出来上がっておりますので、

町・社協と努力して、100パーセントとまではいかなくとも、なるべくそれに近づくよう努力していくつもりでございますので、今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。以上です。

橋 本 それでは、閉会いたします。ありがとうございました。

<了>

### 策定委員会名簿

	氏名	所属等	役職等
1	井野 正嗣 (委員長)	町議会議員	総務文教委員長
2	鞭馬 志津子 (副委員長)	連合婦人会	会長
3	松崎 俊光	大字赤馬場	区長
4	井 洋一	大字満願寺	区長
5	石橋 三幸	大字中原	区長
6	松崎 陽志郎	教育委員会	委員長
7	後藤 辰子	社会教育委員	委員
8	齊藤 加代子	ボランティア連絡協議会	会長
9	加賀 誠一	民生委員児童委員協議会	会長
10	高橋 周二	町議会議員	総務文教副委員長
11	長谷部 富貴子	連合婦人会	副会長
12	穴井 公明	老人クラブ連合会	事務局長
13	蓮田 逸子	特別養護老人ホーム悠清苑	施設長
14	穴井 一之	グループホーム森園	代表取締役
15	棕野 正信	サポートセンター悠愛	副施設長
16	辻 龍也	蓮田医院	院長
17	矢津田 ちとせ	子育て支援ひろば めくもり	保育士
18	平野 たか子	地域包括支援センター	社会福祉士
19	北里 博典	行政	総務課長
20	穴井 博文	行政 (防災担当)	総務班長

### 事務局名簿

21	嶋崎 俊秀 (前任 秋吉又夫)	事務局 (行政)	町民課長
22	橋本 晶子	事務局 (行政)	福祉児童班長
23	田北 雅昭	事務局 (行政)	福祉児童班主事
24	藤堂 伸二	事務局 (社協)	事務局長
25	加賀 孝之	事務局 (社協)	事務局次長
26	佐藤 新一郎	事務局 (社協)	地域福祉活動専門員
27	田中 良和	事務局 (社協)	計画策定専門員
協力	佐伯 謙介	ひとちいき計画ネットワーク	代表取締役